様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：１２６１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１０８４９

研究課題名（和文）グローバル化社会の多様化する主体／コミュニティと「生活圏」としてのスポーツ研究

研究課題名（英文）Sport Studies as a Diversified Subject/ Community and 'Sphere of Life' in a Globalised Society

研究代表者
坂　なつこ（SAKA, Natsuko）

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：００３４５４５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：第1にグローバル化、多様性、ネットワーク、当事者性などを念頭に地域、アイデンティティを基盤とした共同体のスポーツ実践の諸相について国内外の事例を収集した。具体的には各々がアイルランド、オーストラリア、沖縄県などのフィールドワークを行い、静岡県浜松市、群馬県大泉町について共同調査を行った。NPOやボランタリーな組織、都市再生や町おこしなどに取り組むグループ、従来の制度的研究では課題となっていた自治体職員へのインタビューをすることができた。第2に武道組織について、役員や元選手などへのインタビューを行うことで動態的に把握した。第3に理論的研究や文献の検討を進め、分析枠組みの精緻化を行うことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
多様な主体によるスポーツを通じた様々な背景のコミュニティやネットワークについて、コミュニティ形成だけではなく、コンフリクトについても実態把握をすることは、どの様な問題が生じているのか、その解決の方策はどのように構築しうるかという視点を提案できるという点で社会的意義がある。その視点は、グローバル化の進展がもたらす多様な主体やそれに基づくコミュニティの新たな様相を「生活圏（サバイバルユニット）」という分析枠組みによって描くことを可能とし、パンデミックにおけるスポーツ活動が個々の健康や余暇としてだけではなく、コミュニティ形成にも連関するものであることを学術的に把握することに貢献した。

研究成果の概要（英文）：First, with globalisation, diversity, networking and actors, the project collected case studies of various aspects of regional, identity-based and community sport practices in Japan and abroad. Specifically, fieldwork was conducted in Ireland, Australia and Onna Village, Okinawa Prefecture, and joint research was conducted in Hamamatsu City, Shizuoka Prefecture, and Oizumi Town, Gunma Prefecture, with interviews conducted with NPOs, voluntary organisations, groups involved in urban regeneration and town revitalisation, and local government officials, which has been an issue in conventional institutional research. The first was the interview with the local government employees, which had been an issue in previous institutional research. Second, we gained a dynamic understanding of martial arts organisations by interviewing their officers and former players. Thirdly, we were able to elaborate our analytical framework by reviewing theoretical studies and literature.

研究分野：スポーツ社会学

キーワード：スポーツ　コミュニティ　多様性　生活圏　サバイバルユニット

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

グローバル化の進展は人々の生活様式や価値観の変化をもたらした。トランスナショナルな結びつきが広がる一方、ナショナリズムやローカリズムの台頭、宗教的、民族的対立、経済的な格差拡大による新たな分断を生じさせてもいる。社会科学の分野では、多文化主義、排除と包摂、多様性（diversity）、といった視角を持つ研究は、多く蓄積されてきた。スポーツ研究においても、移民、エスニシティ、ジェンダーなど、多様なアクターのもとでの社会統合という課題にスポーツが果たす役割が論じられたり、新しい社会運動の視点からスポーツの担い手としてNPOやサポーターなどが注目されたりしていた。また、EUのスポーツ会議や、NPOやNGOなどとの協働などトランスナショナルな活動が報告されている。さらに、ゲイゲームスやホームレスワールドカップ、スポーツを通じた移民コミュニティの支援など、多様なアクターによるスポーツを通じた新しいコミュニティの形成の萌芽が考察されていた。人々の生活様式や価値観、実践の基盤となるコミュニティの変容があり、スポーツが果たす役割への期待が示されているといえよう。1990年代から進められてきた総合型スポーツクラブ政策は、スポーツ実践の足場を学校体育（課外活動）や企業スポーツから地域へと展開する試みであった。しかし多くのクラブは既存の学区や行政区が基盤となり、従来からあるクラブが受け皿になるケースがみられ、スポーツ欲求やアクターの多様化には対応しきれていないといえる。障がい者スポーツ、エスニック・マイノリティのスポーツ実践などについての実態把握も必要である。さらに、障がいの有無にかかわらず参加できる、いわゆるアダプティッドスポーツの普及や、ホームレスワールドカップから発展したダイバーシティカップが日本国内において開催（2015 年）されたりするなどしており、多様なスポーツ実践の把握が必要となっていた。

２．研究の目的

本研究は、従来のスポーツ観・コミュニティ観とは異なる有り様が、近代スポーツの身体性やスポーツの社会における価値・機能をどの様に変容させるのか、相互にどのように活性化していくのかという「問い」を立てた。本研究では、新しいアクターの形成するコミュニティを「生活圏（サバイバルユニット）」という概念を用いることによって、その諸相を捉えることを目的とした。グローバリゼーション研究においては、多様な主体／アクター、コミュニティ研究は蓄積されてきていたが、スポーツ研究と結びつけたものは、特に国内の研究においては、あまり見られなかった。スポーツ実践の「地場・磁場」を捉え直すことで、スポーツの社会における役割の変化も捉えられると考え、その把握を目的とした。

３．研究の方法

本研究では、実態の把握と、理論研究を精緻化し、分析枠組みの精製することを方法とした。

(1) 実態の把握について、研究分担者それぞれがこれまで行ってきた実態調査のフィールドについて、「生活圏（サバイバルユニット）」という概念を用いて新たな調査を行い、実態把握するとともに、分析を試みた。

(2) 社会学者ノルベルト・エリアスに依拠して「生活圏（サバイバルユニット）」という概念を、スポーツの場における主体像の多様化と多層化、ネットワークの有り様を捉えるために、分析枠組みとして精緻化を行った。

４．研究成果（主な成果、国内外におけるインパクト、今後の展開）

(1) 第１に、グローバル化、多様性（ダイバーシティ）、ネットワーク、当事者性などをキーワードに、地域や、アイデンティティ・ベースの共同体（identity based community）を基盤としたスポーツ実践の諸相について国内外の事例を収集した。具体的には、アイルランド、オーストラリア、沖縄県について研究分担者がそれぞれ調査および資料収集を行った。また、静岡県浜松市、群馬県大泉町については共同でフィールドワーク調査を行った。現地では、NPO やボランタリーな組織、都市再生や町おこしなどに取り組むグループも訪問し、スポーツをめぐる場においてどのような主体が参画しうるのか、実態の把握を行うことができた。同時に、従来の制度的研究では課題となっていた、自治体職員、地域クラブなどへのインタビューおよび資料収集を行うことで、ミクロな視点からの分析を進めることができた。以上の調査では、社会再生・統合、地域活性化におけるスポーツ・身体文化の役割を実証的に把握した。2020 年度以降はパンデミックにより現地調査は行わなかったが、オンラインを活用し、分析を進めることができた。

(2) 日本の武道組織を伝統的な身体文化に関する「生活圏（サバイバルユニット）」とみなし、動態的に分析することができた。具体的には、剣道および柔道組織を対象とし、これらの武道が国際化する中で、両組織がいかに文化的伝統の保存に取り組んでいるのかをインタビューおよび資料収集により把握することができた。

(3) 以上の調査と平行して、研究分担者間で研究会や検討会を定期的に行い、国内外のスポーツ研究の動向を把握しつつ、「生活圏（サバイバルユニット）」概念の精緻化を行うことができた。特に、「生活世界」「公共圏」「スポーツ界」など、従来のアクター／コミュニティ研究との異同を考察し、実証分析のためのスケールの精製を進めた。

(4) 国内外の関連文献、論文収集したものをリスト化し、アーカイブを作成したのち、オンライン共有した。一般の方を交えた研究会やメディアへの発信、ホームページでの情報公開などを行うことで社会への発信をおこなった。

(5)「生活圏（サバイバルユニット）」という枠組みで、具体的な事例分析をしているケースは、国内では皆無であり、国外でもデンマーク、アイルランドに数件みられるのみであり、研究のインパクトは大きいと考える。また、今後の展望としては、概念枠組みおよび方法論をさらに精製すること、パンデミックの広がりによって再確認された、グローバルな社会の変化が社会および個々の身体やその活動に影響するのかという点を、「生活圏（サバイバルユニット）」の枠組みを用いて分析することが目指される。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計16件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 坂上康博	４．巻 38
２．論文標題 スポーツの武士道/武道的変容説の再検討―拙書『にっぽん野球の系譜学』を中心に―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 体育史研究	６．最初と最後の頁 41-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 坂上康博	４．巻 1008
２．論文標題 ３つの東京オリンピックと歴史研究の課題―忘却と捏造、神話化に抗して―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 歴史学研究	６．最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 坂なつこ	４．巻 949
２．論文標題 多様性の尊重とスポーツ	５．発行年 2021年
３．雑誌名 人権と部落問題	６．最初と最後の頁 28-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 尾崎正峰	４．巻 944
２．論文標題 人々のスポーツのために－オリンピックに振り回されずに問い続ける	５．発行年 2021年
３．雑誌名 世界	６．最初と最後の頁 136-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村英仁	4．巻 38
2．論文標題 日本的ビッグクラブの実現に重要な3つの論点	5．発行年 2019年
3．雑誌名 一橋大学スポーツ研究	6．最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/31070	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中村英仁	4．巻 11
2．論文標題 企業スポーツの脱制度化：休廃部に与える経済的および社会的要因の影響の分析	5．発行年 2019年
3．雑誌名 スポーツマネジメント研究	6．最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5225/jjsm.2019-004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鈴木直文	4．巻 38
2．論文標題 スポーツとサバイバルユニット再考	5．発行年 2019年
3．雑誌名 一橋大学スポーツ研究	6．最初と最後の頁 43-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/31071	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 尾崎正峰	4．巻 38
2．論文標題 オリンピックとSPレコード ： 戦前におけるスポーツ、オリンピックの「受容」に関する一視点	5．発行年 2019年
3．雑誌名 一橋大学スポーツ研究	6．最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/31068	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 尾崎正峰	4．巻 25
2．論文標題 「文化の手荷物」としてのスポーツが織りなすアマルガム－オーストラリアの移民と「エスニック・ゲーム」としてのサッカー－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 移民研究年報	6．最初と最後の頁 45-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 尾崎正峰	4．巻 第111巻第1号
2．論文標題 地域の公共スポーツ施設の持続可能性の模索－参加と自治の経験に学ぶ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 都市問題	6．最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yasuhiro Sakaue	4．巻 2(2)
2．論文標題 The Nationalization of the Body in Martial Arts: A Case of Postwar Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Martial Arts Research	6．最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15495/ojs_25678221_22_122	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 尾崎正峰	4．巻 通巻37号
2．論文標題 オリンピック、芸術競技、音楽	5．発行年 2018年
3．雑誌名 一橋大学スポーツ研究	6．最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/30091	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 坂上康博	4．巻 通巻37号
2．論文標題 日露戦中・戦後の大日本武徳会―戦時下の活動、武術事業の変化と「剣道」「柔道」への名称変更、 イデオロギー的機能―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 一橋大学スポーツ研究	6．最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/30092	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 坂　なつこ	4．巻 通巻37号
2．論文標題 ノルベルト・エリアスにおけるサバイバルユニットとスポーツ	5．発行年 2018年
3．雑誌名 一橋大学スポーツ研究	6．最初と最後の頁 59-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/30095	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 坂　なつこ	4．巻 27 巻 1 号
2．論文標題 特集のねらい	5．発行年 2019年
3．雑誌名 スポーツ社会学研究	6．最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村英仁	4．巻 通巻37号
2．論文標題 横浜Fマリノス　嘉悦朗氏による改革の分析	5．発行年 2018年
3．雑誌名 一橋大学スポーツ研究	6．最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/30094	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Yasuhiro Sakaue
２．発表標題 The Bid for the 1940 Tokyo Olympics and Their Relinquishment: Challenging the Fabrication of Historical Fact and its Stagnation
３．学会等名 2020 Yokohama Sport Conference（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 岡本純也
２．発表標題 楽しみの追求の結果としての民俗舞踊の「伝承」－沖縄県恩納村の盆踊り「エイサー」の事例を中心に－
３．学会等名 日本スポーツ社会学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 岡本純也
２．発表標題 なぜ沖縄の民俗舞踊「エイサー」は世界に広まっていったのか
３．学会等名 日本スポーツ社会学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 武井陽太郎、岡本純也
２．発表標題 100㎞ウォークにおける『物語』
３．学会等名 日本スポーツ社会学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 NAKAMURA Hidemasa, Dingyi Wu, Misaki Iteya
２．発表標題 Analyzing the Impact of Elite Sporting Culture Behind Japanese Judo Elite Success and Failure: Identifying negative influence on elite sports success
３．学会等名 26th The European Sport Management Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計8件

１．著者名 坂上 康博、來田 享子編著	４．発行年 2021年
２．出版社 青弓社	５．総ページ数 362
３．書名 『東京オリンピック1964の遺産－成功神話と記憶のはざま』分担部分（坂上康博）第3章忘れられた遺産－文学者たちの東京オリンピック批判、80－110、終章対談：一九六四年大会と二〇二〇大会を双方向で捉え直す、280－309）	

１．著者名 長谷川智・坂上康博・木寺英史・鈴木智也	４．発行年 2021年
２．出版社 左文右武堂	５．総ページ数 311
３．書名 『剣道の未来―人口増加と新たな飛躍のための提案』分担部分（坂上康博）第3章時代を超え、国境を越える文化の力―剣道三百年史、97-156）	

１．著者名 Andreas Niehaus and Kotaro Yabu eds.	４．発行年 2021年
２．出版社 Ergon	５．総ページ数 305
３．書名 Challenging Olympic Narratives. Japan, the Olympic Games and Tokyo 2020/21, Ergon, 2021. (Yasuhiro Sakaue, “A Different Legacy: The 1964 Tokyo Olympics and Contemporary Criticism by Novelists and Literary Critics”, 79-95)	

1．著者名 坂上 康博、來田 享子編著	4．発行年 2021年
2．出版社 青弓社	5．総ページ数 362
3．書名 『東京オリンピック1964の遺産』分担部分（尾崎正峰）：第7章「オリンピック・マーチ」が鳴り響いた空―『オリンピックと音楽』に刻まれる「記憶」	

1．著者名 高峰修，岡本純也，千葉直樹，東原文郎，横田匡俊編著	4．発行年 2022年
2．出版社 杏林書院	5．総ページ数 232
3．書名 『現代社会とスポーツの社会学』分担部分（岡本純也）第11章　グローカリゼーション：伝統的身体文化のスポーツ化と境界を越えた拡張，133-145	

1．著者名 Fan Hong and Lu Zhouxiang (eds.)　Yasuhiro Sakaue	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 650
3．書名 The Routledge Handbook of Sport in Asia	

1．著者名 川本玲子（編著）、小岩信治、小泉順也、早坂静、南裕子、河野真太郎、坂なつこ、越智博美、崎順子	4．発行年 2020年
2．出版社 小鳥遊書房	5．総ページ数 296
3．書名 ジェンダーと身体 解放への道のり：第6章　スポーツと「男性性の保護区」の変容（坂なつこ）	

１．著者名 白坂 蕃、稲垣 勉、小沢 健市、古賀 学、山下 晋司（編集）、岡本純也	４．発行年 2019年
２．出版社 朝倉書店	５．総ページ数 464
３．書名 観光の事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

トップスポーツと地域住民に関する調査報告書 －地域におけるトップスポーツクラブ・球団のファンの特徴－
https://www.ymfs.jp/project/culture/survey/016-topsports/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡本　純也 (Okamoto Junya) (00313437)	一橋大学・大学院経営管理研究科・准教授 (12613)	
研究分担者	坂上　康博 (Sakaue Yasuhiro) (10196058)	一橋大学・大学院社会学研究科・特任教授 (12613)	
研究分担者	尾崎　正峰 (Ozaki Masataka) (20272768)	一橋大学・大学院社会学研究科・特任教授 (12613)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中村　英仁 (Nakamura Hidemasa) (30700091)	一橋大学・大学院経営管理研究科・准教授 (12613)	
研究分担者	鈴木　直文 (Suzuki Nofumi) (80456144)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授 (12613)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関